

令和2年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「身近に起こる土砂災害」

栃木県 宇都宮短期大学附属中学校 2年 ^{むぎくら} 麦倉 ^{いつき} 惟月

私達が住んでいる地球。水と緑に恵まれた美しい星である。しかし近年この地球にいろいろな変化が起こっている。例えば地球温暖化。大気中の二酸化炭素などの温室効果ガスが増加し、地球全体の平均気温が上昇している。気温が上昇することで海面上昇や、異常気象の頻発など自然の生態系や生活環境、農業などにも大きな影響をおよぼしている。

そんな中、日本で多発している異常気象は、数十年に一度といわれるほどの大雨が、毎年のように降り、大きな災害を引き起こしている。記憶に新しいのは、2020年7月3日から7月31日にかけて、熊本県を中心に九州や中部地方などで発生した「令和2年7月豪雨」である。この集中豪雨では、河川の氾濫や、道路・田畑の冠水の他、崖崩れや法面崩落などの土砂災害も相次いだ。テレビやネットで見る災害の姿に、とても恐怖を感じると共に、もし私の身近で起こったらどうすれば良いのか、考えるきっかけともなった。

私の家は田の近くにあり、山や林はあまり近くにはないので土砂災害とは関係ないと思っていた。しかし昨年の台風の時に、スマートフォンに何度も避難準備情報が流れたのだ。私は、自分には関係ないと思っていたので、のんびりくつろいでいた。1人あせっていたのは母親だった。

「お母さん何してるの。」

「いつでも避難できるように、荷物をまとめているんだよ。」

と言って懐中電灯や着がえ、食料などをぬれないようにビニール袋に入れていた。

「おじいちゃんとおばあちゃんにも避難情報が出ているから、動きやすい服装でいるよう伝えてね。」

と、母から伝言を頼まれたのだ。何をそんなにあわてているのだろうと思った。夜になり辺りも暗いため周りの様子は見えないが、大雨の音や消防車のサイレン、川のゴォーっという音が聞こえる不気味な夜だった。父と母は相談して、今日はもう暗いから家にいようということになった。いつでも逃げられるよう普段着で寝た。

次の日、私達は何事もなかったかのように朝を迎えた。

「お母さん、心配しすぎだよ。」

と言いながら車で買い物に出かけると、町並みがいつもと違っている。道路が渋滞し、あちこちの家に木や草、物がひっかかっている。通行止めの道路もある。やはり、昨晚大きな災害が自分の近くで起こっていたのだ。水に流され、近くの車につかまって救助された人や崖崩れで道が通れなくなったなど、次々にニュースが聞こえてくる。もし、私の家で起こったとしたらと考えると本当に怖くなってきた。

もし避難するならどこに避難するのだろうと思っていた時、私は小学校で教わったことを思い出した。私の通っている小学校の裏にはまごころ広場という小さい裏山がある。よく休み時間に遊ぶところだが、その小さな山は土砂災害警戒区域になっているので、小学校ではなく中学校へ避難することになっていたのだ。私の身近に危険なところがあることを思い出した。母が私に「城山地区安全安心マップ」を見せてくれた。ここには、土砂災害警戒区域や避難情報がのっていた。近所にたくさん危険な場所があることを知った。

「もし逃げ遅れたら、自分だけでなく周りの人にも危険をさらすことになるんだよ。だから自分の身は自分で守る。これを忘れてはいけないよ。」

と母は言った。私はのんびりしていた自分を反省し、母と避難経路や備蓄品を安全マップを見ながら確認した。土砂災害は気付かないだけで身近にあるのだ。

最近、山を切り開きソーラーパネルを設置する所を多く見かける。ソーラーパネル自体は反対しないが、その切り開かれた山から土が流れ出し、よく道路に流れこんでいるのを見かける。木が植えてあれば、くずれないような場所でも、あんなに大規模に伐採し土が見えていれば、今にも土砂崩れが起きそうだと思った。

令和2年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞(事務次官賞)

地球温暖化だけではなく、人間による森林破壊も土砂災害の原因になっていることを強く感じた。私は、災害に自分自身が備えるだけでは土砂災害は防げないと考えている。もちろん砂防ダムや法面工事、植樹などいろいろな対策も行われているが、自然と共存していこうという気持ち、自分達の生活のためにどんどん開発を進めるのではなく、自然を守りながら生活するスタイルに変えていかないと、土砂災害はなくならないと思った。

この出来事をきっかけに、少しでも土砂災害による被害を減らすには、1人1人が土砂災害を知り、関心を持つことがとても大切なのではないかと考えた。